

新たな過疎対策法の制定を求める意見書を全会一致で可決

6月定例会市議会の最終日（14日）に大島崇行議員（議会運営委員長）が提出者となり、「新たな過疎対策法の制定に関する意見書案」が提出され、全会一致で可決されました。

意見書案では、現行の「過疎地域自立促進特別措置法」が令和3年3月末で失効することから、引きつづき総合的な過疎対策を充実強化させていくことが必要であると、新たな過疎対策法の制定を要望しています。

新しい人権擁護委員1人の推薦に議会が全会一致で同意

沼田市では11人の人権擁護委員が法務大臣から委嘱を受けていますが、1人が任期満了となるため市長から新しい人が議会最終日（14日）に推薦され、議会は全会一致で同意しました。

新しい人権擁護委員 塚越 隆二氏（新町）

テラス沼田の問題点を改善し利用しやすい施設に

大東議員は一般質問で、5月にオープンしたテラス沼田の市役所の課によっては場所がわかりづらいことや1階は風が吹き抜けるなどの問題点を指摘し、早急に改善するよう求めました。



市長は、「全職員に改善すべき点や要望について意見を募った。改善にむけて調整をすすめている」と答えました。

入居がされなかった場所について市長は、「7月中に出店者を決めたい」と答えました。

毎月1回 みんなで楽しく学習 上原町おもしろ学習塾

上原町では昨年度から月に1度、上原町区民館で様々なテーマで「おもしろ学習塾」が開かれています。

今年度3回目となる6月の「おもしろ学習塾」では、「真田信之ってどんな人」（講師 田辺武氏）と「薬の話あれこれ」（講師 松本博之氏）の講座が開かれました。

4回目は7月27日、午後1時30分から「熱中症対策とは」と「森林文化都市沼田」をテーマに開かれる予定です。



続ぶらり散歩 めまた道 利根町あれこれ 特別編その二十三

根利の奇應丸

根利の奇應丸は、江戸時代に「日本三大奇應丸」（江戸の長寿堂、大阪の樋屋と根利の奇應丸）の一つに数えられた家伝薬で、寛永13年（1636）に創業しました。

奇應丸については、江戸時代の初期に根利に一人の旅僧が訪れ、一夜の宿を求めましたが、身なりがみすぼらしかったことから泊める家はなく、小林七郎兵衛の家が僧を快く泊めました。

翌朝、僧が出立する前に一晩泊めてもらったお礼にと、薬の製法を細かく教えていったと伝えられています。

この薬を伝えた旅の僧は、戦国時代から江戸時代初期にかけての名医と伝えられている永田徳本（ながたたくほん）だったという説もあります。

小林家には、薬草か毒草かを見分けるため草を口にくわえている中国の神話に登場する薬草の神様で、像高33釐の



「神農像」の木像（写真上）や薬を処方する時に使われた道具類や薬袋（写真左）が今も残されています。



高所得者の保険料などを見直し1兆円規模の収入を増やし、約200兆円の年金積立金を活用し、年金を減らさず底上げすることが必要です。

「マクロ経済スライド」は、2004年の年金法の改悪で自民・公明党政権が導入したもので、物価・賃金上昇してもその分より引き上げ幅を低く抑え込み、実質削減する制度で、この仕組みによって安倍政権の7年間で年金は実質6・1%も減りました。安倍首相は22日のテレビ番組で、「マクロ経済スライド」を廃止すれば「7兆円の財源が必要」と発言しましたが、これは国民が受け取るはずの年金が「マクロ経済スライド」によって、7兆円も削られるということになります。

こんにちは 大東のぶゆき です